

2016年8月7日(日)朝10:10～

聖霊降臨節第12、大学生会等

8月第1聖餐総員共同主日礼拝式説教

日本アライアンス庄原基督教会

説教題：封印された巻物を開ける玉座のお方

聖書:ヨハネの黙示録 5章1～5節

＜口語訳＞

新約聖書391頁

ヨハネの黙示録 5章1～5節

＜新共同訳＞

新約聖書458頁

ヨハネの黙示録 5章1～5節

＜新改訳第3版＞

新約聖書481～482頁

ヨハネの黙示5章1～5節＜塚本訳＞

新約聖書788頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」とありますように、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通して(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録されたものと理解されています。
- ◇ヨハネ黙示録1章では、神の御子イエス・キリスト様の再臨信仰を持って生きるキリスト者への励ましのことばと黙示の神の御子イエス・キリスト様の愛の思いが啓示され、2章1～3章22節は、エペソ教会、スミルナ教会、ペルガモ教会、テアテラ教会、サルデス教会、フィラデルフィヤ教会、ラオデキヤ教会への手紙で、4章1～5節は、「天の玉座・御座」とその周辺の光景描写、6～8節は、その続きで、4つの生き物の讚美、9～11節は、「天の玉座・御座」と24人の長老の讚美描写です。
- ◇ヨハネの黙示録4章～5章は、ヨハネが見た天の玉座・御座と屠られた羔羊なるお方の姿です。

⇒ヨハネの黙示録5章1～5節は、「**天の玉座・御座の父なる神の右手にある封印の巻物**」を開封できる屠られた羔羊描写です。

本論；

◇本日、ヨハネ黙示録第5章1～5節から主の使信に思い・心をとめます。

◆黙示録5章1節；ヨハネは、神のさばきが告げられる巻物は、封印されていました。

◇1～5節；塚本訳◆7つの封印ある巻き物

「1 そして私は玉座に坐し給う者の右手に（一つの）巻き物（があるの）を見た。それは内側にも外側にも（一杯に）字が書いてあり、七つの封印を以て（固く）封ぜられてあった」と、ヨハネは主からの第2の幻を啓示されました。

◇1節；「私は玉座に坐し給う者の右手に（一つの）巻き物（があるの）を見た」、その巻物には「内側にも外側にも（一杯に）字が書いてあり」、「七つの封印を以て（固く）封ぜられてあった」と、ヨハネは語り、非常に特徴的な巻物を見て、不思議に思った様子が描かれています。

- ⇒先ず、ヨハネは、「**巻き物**」が、「**玉座に坐し給う者(父なる神)の右手**」にあるのを、確認しています。「**羔羊**」の手には、まだ渡っていません。
- ⇒「**さばき**」は、**神の専権事項**であると、再確認させられます。
- ⇒「**神の巻き物**」は、人間が恣意的に扱えるものではないのです。
- ⇒「**被造物の代表である4つの生き物**」は、**神のご支配**を告げ、「**神に贖われた者の代表である24人の長老たち**」は、**神の働きを讚美**するとともに、**神に仕えたしるしの栄光の冠**を投げ出して、ひれ伏しています(4章)。
- ⇒人間は、憲法をしばしば、自分の都合のよいように使い、多くの人々の願っていない戦争などの禍に人々を巻き込みます。
- ⇒併し、**神**は、律法を厳密に適用し、人間が**神の律法**を破ったにも関わらず、人間の罪のために、**神の御子・羔羊**を私たちの罪の身代わりに十字架につけ、「**屠られた羔羊**」とし、**神の律法**に従われたのです。
- ⇒**神の右手の巻き物**は、**封印**されています。

◆ 黙示録5章2～5節 ; ヨハネは、神の右手にある封印された巻き物を解くことができるお方があることを24人の長老のひとりから知らされました。

◇ 1～5節 ; 塚本訳 ◆ 7つの封印ある巻き物

「2 私はまた強い天使が大声で、「誰が(この)巻き物を開いて、その封印を解くに相応しいか」と触れているのを見た。

3 しかし、天にも地にも地の下にも、誰一人(として)その巻き物を開いて、それ(に書いてあること)を見ることの出来る者が無かった。

4 私はさめざめと泣いた。(広いこの宇宙に、)その巻き物を開いて、それを見るに相応しい者が一人も無かったのである。

5 すると(かの)長老の一人が私に言う、「泣くな。視よ、ユダ族の獅子、ダビデの根(である者)が(既に)勝った(から)、彼がその巻き物と七つの封印とを開く(ことが出来る。)」と、ヨハネは語ります。

◇ 2節 ; 先ず「強い天使」が、「大声で」、「誰が(この)巻き物を開いて、その封印を解くに相応

- しいか」と告げる声をヨハネは、聞きました。
- ⇒「**神の玉座**」の前で、「**神の右手にある巻物**」の**開封**が問われています。
- ⇒「**神の天使**」は、**神に忠実**ですから、ヨブ記ですでに描かれていたことから推測できますが、**神の玉座の前での会議**があり、その結果が告げられているのです。
- ◇**3～4節**；「**天にも地にも地の下にも、誰一人(として)その巻き物を開いて、それ(に書いてあること)を見ることの出来る者が無かった**」という現実をヨハネは見せられ(3)、「**さめざめと泣き**」、その理由を「(広いこの宇宙に、)その巻き物を開いて、それを見るに相応しい者が一人も無かった」からだと解説します。
- ⇒**OS師**は、すべての**神の被造物**への**挑戦**であると解説しておられますが、「**4つの生き物**」も、「**24人の長老**」も、「**巻き物を開いて、それを見るに相応しい者**」を被造物から推薦できません。
- ⇒ヨハネは、**イザヤ書29章**や**6章**を連想し、人間の心がいかに**神**から遠ざかっているかを思ったと、**KT師**は、ご指摘です。

◇5節;「**24人の長老の一人**」が、突然、「**泣くな。視よ、ユダ族の獅子、ダビデの根(である者)が(既に)勝った(から)、彼がその巻き物と七つの封印とを開く(ことが出来る)**」と、宣言します。

⇒**24人の長老は、神の贖い、御子の十字架の意味を知る人々で、創世記49章9節を連想し、「ユダ族の獅子」を見出し、「ダビデの根で、勝利者」であるお方を「七つの封印とを開く(ことが出来る)」者と、指定します。**

⇒**ヨハネの涙を拭い、神の救いの希望を24人の長老はさし示します。**

⇒**私たちは、ヨハネ黙示録6章からの記録を読むことができる時代にありますので、即座に、「神の右手の巻物の中身」と、「七つの封印とを開く(ことが出来る)」お方の心も知ります。**

⇒**「巻き物」が示す厳しい裁きのゆえに、ヨハネ黙示録4章1節のヨハネへの天の声を教会の空中携拳と理解する立場を取りますが、アライアンスの群れも、その1つです。**

⇒**「24人の長老」が堅持した「封印を開く」お方に目を向ける礼拝が大事なのです。**

結論；

- ◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」とありますように、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通して(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録されたものと理解されています。
- ◇ヨハネ黙示録1章では、神の御子イエス・キリスト様の再臨信仰を持って生きるキリスト者への励ましのことばと黙示の神の御子イエス・キリスト様の愛の思いが啓示され、2章1～3章22節は、エペソ教会、スミルナ教会、ペルガモ教会、テアテラ教会、サルデス教会、フィラデルフィヤ教会、ラオデキヤ教会への手紙で、4章1～5節は、「天の玉座・御座」とその周辺の光景描写、6～8節は、その続きで、4つの生き物の讚美、9～11節は、「天の玉座・御座」と24人の長老の讚美描写です。
- ◇黙示録4～5章は、ヨハネが見た天の玉座・御座と屠られた羔羊なるお方の姿です。

- ⇒ヨハネの黙示録5章1～5節は、「**天の玉座・御座の父なる神の右手にある封印の巻物**」を開封できる屠られた羔羊描写です。
- ⇒「**さばき**」は、**神の専権事項、恵みも、神の専権事項、「神礼拝σέβομαι」**に全力を注ぎたい。
- ⇒「**祈り、願い、讚美、再宣言**」と「**神の愛と恵み**」は、**神のしもべの使命**です。
- ⇒ヨハネに黙示されたことは、「**神礼拝をするσέβομαι**」ことに、「**(主にある)患難、王国(における幸福)、イエス(来臨)の待望**」をもって戦う「**ヨハネの兄弟**」とされたことを光栄に思う**神の教会の人々**によって継承されるのです。
- ⇒「**神の右手にある巻き物の封印を開く**」、「**七つの封印とを開く(ことが出来る)**」お方に**心の目を注ぐ**ことが大事です。
- ⇒現実の今は、「**巻き物**」は、「**神の右手**」から「**神の屠られた羔羊**」の手に委ねられています。
- ⇒「**地上の7つの教会の栄枯盛衰**」を思い見つつ、「**傷つき**」、「**病み**」、「**墮落し**」、「**腐れ**」、「**苦しみ**」、「**悩み**」、「**揺れ**」、「**傾き**」、「**血ぬられ**」、「**翻弄される**」教会の**神礼拝**を堅持したい。